

令和7年度 事業報告書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

学校法人 山村学園

1. 法人の概要

2. 財務の概要

3. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

4. 山村学園短期大学

1. 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人 山村学園
- ②主たる事務所の住所 埼玉県川越市田町16番地2
電話番号 049-223-3596 F A X 番号 049-222-5356

(2) 建学の精神（校訓）、教育目標

「質実」素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
「英知」高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
「愛敬」人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
(教育目標)
「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂 6 0 4
山村学園高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県川越市田町 1 6 - 2
山村国際高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県坂戸市千代田 1 - 2 - 2 3

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	50	46	150	91
山村学園高等学校	普通科	440	606	1,320	1,491
山村国際高等学校	普通科	280	311	840	835

(6) 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
山村学園短期大学	0.67	0.59	0.54	0.54	0.61
山村学園高等学校	1.05	1.15	1.16	1.05	1.13
山村国際高等学校	1.12	1.15	1.12	1.00	0.99

(7) 役員の概要

(令和8年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数：2人 現員：2人>

役 員	職名	氏名	常勤・非常勤 の別	選任条項	選任区分	選任機関	就任年月日	現職等
	理 事	ヒラノ マサミ 平野 正美	常 勤	第14条2項	理事長	理事会	R7.6.20	
				第7条1項2号	理事会選任	理事会	R7.6.20	
	//	ヤマムラ ホダカ 山村 穂高	常 勤	第7条1項1号	理事会選任	理事会	R8.4.1	山村学園短期大学 学長
	//	カトウ ヒデアキ 加藤 秀昭	常 勤	第7条1項1号	理事会選任	理事会	R7.4.18	山村学園高等学校 校長
	//	ホリ ナオト 堀 尚人	常 勤	第7条1項1号	理事会選任	理事会	R8.4.1	山村国際高等学校 校長
	//	ヤマムラ シンデル 山村 滋	非常勤	第7条1項2号	理事会選任	理事会	R7.6.20	※学外者
	//	ヤマグチ イチロウ 山口 一郎	非常勤	第7条1項2号	理事会選任	理事会	R7.6.20	※学外者
	//	フジノ モイタ 藤野 清太	非常勤	第7条1項2号	理事会選任	理事会	R7.6.20	※学外者
	監 事	イトウ ツカサ 伊藤 司	非常勤	第22条1項	評議員会選任	評議員会	R7.6.20	司法書士
	//	コバヤシ マツタロウ 小林 松太郎	非常勤	第22条1項	評議員会選任	評議員会	R7.6.20	

①非業務執行理事等との責任限定契約の状況

寄附行為第60条（責任限定契約）に基づき、非業務執行理事（山村 滋氏、山口一郎氏及び藤野清太氏の各氏）及び監事（伊藤 司氏及び小林松太郎氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

②役員等を被保険者として加入している役員賠償責任保険契約の状況

理事会の決議に基づき、役員賠償責任保険に加入しております。

ア) 保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

イ) 被保険者(無記名式) 学校法人山村学園の理事7名、監事2名、評議員9名、
会計監査人2名

ウ) 保険の名称 学校法人向け役員賠償責任保険

エ) 支払事由及び支払限度額

・支払事由

被保険者である理事、監事、評議員、会計監査人がその地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等。

・支払限度額

3億円

(8) 評議員の概要

(令和8年5月1日現在)

<評議員定数：9人 現員：9人>

評 議 員	氏 名	選任条項	選任区分	選任機関	就任年月日	現 職 等
	ヤマムラ マサキ 山村 正己	第32条1項1号	法人職員	評議員会	R7.6.20	山村学園法人本部 本部長
	ワタナベ トシヒロ 渡辺 利彦	第32条1項1号	法人職員	評議員会	R7.4.18	山村学園高等学校 教頭
	クドウ ジュン 工藤 潤	第32条1項1号	法人職員	評議員会	R7.6.20	山村国際高等学校 教頭
	サカタ マサエ 坂田 正枝	第32条1項2号	卒業生	評議員会	R7.6.20	
	ノジマ ヤスコ 野島 康子	第32条1項2号	卒業生	評議員会	R7.6.20	
	イシヤマ ヨシコ 石山 佳子	第32条1項2号	卒業生	評議員会	R7.6.20	
	ハギワラ モトオ 萩原 基雄	第32条1項2号	卒業生	評議員会	R7.6.20	あたご保育園園長
	クロサワ カズユキ 黒澤 一幸	第32条1項3号	学識経験者	理事会	R7.6.20	
	タナカ ヒサコ 田中 久子	第32条1項3号	学識経験者	理事会	R7.6.20	

(9) 会計監査人の概要

(令和8年5月1日現在)

<評議員定数：1人以上 現員：2人>

会 計 監 査 人	氏 名	選任条項	選任区分	選任機関	就任年月日	現 職 等
	カジマ エイイチ 梶間栄一	第50条1項	公認会計士	評議員会	R7.6.20	日本公認会計士協会 登録番号9092号
	トミコロ ジュン 富所 淳	第50条1項	公認会計士	評議員会	R7.6.20	日本公認会計士協会 登録番号18488号

①公認会計士との責任限定契約の状況

寄附行為第60条（責任限定契約）に基づき、会計監査人（梶間栄一氏及び富所 淳氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

(10) 理事選任機関の概要

理事選任機関 理事会

構成員 全ての理事

理事の選任 理事選任機関が理事を選任するときは、あらかじめ、評議員会の意見を聴かなければならない。

(11) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和8年5月1日現在)

区 分	教 員		職 員		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	4	0	4
山村学園短期大学	9	19	4	6	38
山村学園高等学校	86	39	10	5	140
山村国際高等学校	52	27	5	3	87
計	147	85	23	14	269

2. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

有形固定資産は減価償却額計上のため対前年比 2 億 1,378 万円の減少、特定資産は対前年比 7,500 万円の増加により、固定資産は 62 億 7,650 万円となりました。流動資産は対前年比 2,745 万円の減少し、7 億 9,760 万円となりました。この結果、資産の部合計は 70 億 7,411 万円となりました。

固定負債は主に借入金返済により 1 億 2,083 万円の減少、流動負債は 3,020 万円の増加により、負債の部合計は 12 億 5,538 万円となりました。

第 1 号基本金は、3,966 万円の組入れ、6,998 万円の取崩し結果、純資産は 58 億 1,873 万円となりました。

(単位：千円)

科 目	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
固定資産	6,503,668	6,482,016	6,546,206	6,415,838	6,276,503
流動資産	867,245	807,846	787,233	825,056	797,604
資産の部 合計	7,370,914	7,289,862	7,333,439	7,240,894	7,074,107
固定負債	923,464	833,332	902,375	806,882	686,052
流動負債	613,640	517,829	538,928	539,130	569,325
負債の部 合計	1,537,104	1,351,160	1,441,303	1,346,011	1,255,377
基本金	9,714,965	9,654,166	9,838,425	10,009,248	9,978,925
繰越収支差額	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288	△ 4,114,365	△ 4,160,195
純資産の部 合計	5,833,810	5,938,702	5,892,136	5,894,883	5,818,730
負債及び純資産の部 合計	7,370,914	7,289,862	7,333,439	7,240,894	7,074,107

イ) 財務比率の経年比較

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.23年	0.31年	0.21年	0.27年	0.41年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	141.3%	156.0%	146.1%	153.0%	140.1%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	20.9%	18.5%	19.7%	18.6%	17.7%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	252.6%	274.8%	302.9%	309.5%	292.2%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	91.0%	91.6%	91.1%	92.3%	93.1%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	32.7%	34.2%	31.5%	31.5%	33.4%

②事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

経常収支差額が令和5年度より3年連続支出超過となりました。

(単位：千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,128,647	1,211,571	1,293,339	1,307,044	1,252,951
	手数料	82,424	77,721	66,578	61,335	74,320
	寄付金	10,280	34,873	23,431	14,386	14,848
	経常費等補助金	931,689	974,953	987,368	992,697	1,003,892
	付随事業収入	32,161	30,336	41,613	44,619	43,286
	雑収入	127,605	62,045	124,743	131,444	48,653
	教育活動収入 計	2,312,806	2,391,498	2,537,072	2,551,524	2,437,951
	事業活動支出の部					
	人件費	1,576,948	1,497,015	1,634,498	1,690,036	1,598,638
	教育研究経費	577,114	639,779	678,534	650,501	629,278
	管理経費	186,391	222,591	237,839	231,797	234,264
	徴収不能額等	0	0	1,493	0	0
	教育活動支出 計	2,340,454	2,359,385	2,552,364	2,572,333	2,462,179
	教育活動収支差額	△ 27,648	32,114	△ 15,292	△ 20,810	△ 24,229
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	1	1	1	22	83
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	1	1	1	22	83
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	6,386	5,940	5,600	6,078	5,179
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	6,386	5,940	5,600	6,078	5,179
	教育活動外収支差額	△ 6,385	△ 5,939	△ 5,600	△ 6,056	△ 5,096
経常収支差額		△ 34,033	26,175	△ 20,892	△ 26,865	△ 29,325
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	85	0
	その他の特別収入	33,326	80,525	39,387	30,362	13,637
	特別収入 計	33,326	80,525	39,387	30,447	13,637
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	1,375	64,723	832	0
	その他の特別支出	5	433	337	3	60,466
	特別支出 計	5	1,808	65,060	834	60,466
	特別収支差額	33,321	78,717	△ 25,673	29,612	△ 46,829
基本金組入前当年度収支差額		△ 712	104,892	△ 46,565	2,747	△ 76,154
基本金組入額合計		△ 99,843	△ 119,024	△ 275,595	△ 172,651	△ 39,662
当年度収支差額		△ 100,555	△ 14,132	△ 322,160	△ 169,904	△ 115,816
前年度繰越収支差額		△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288	△ 4,114,365
基本金取崩額		22,689	179,822	91,336	1,827	69,985
翌年度繰越収支差額		△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288	△ 4,114,365	△ 4,160,195
(参考)						
事業活動収入 計		2,346,133	2,472,025	2,576,459	2,581,993	2,451,670
事業活動支出 計		2,346,845	2,367,133	2,623,025	2,579,246	2,527,824

イ) 財務比率の経年比較

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.2%	62.6%	64.4%	66.2%	65.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.0%	26.8%	26.7%	25.5%	25.8%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.1%	9.3%	9.4%	9.1%	9.6%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△0.0%	4.2%	△1.8%	0.1%	△3.1%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	48.8%	50.7%	51.0%	51.2%	51.4%
寄附金比率	$\frac{\text{寄附金}}{\text{事業活動収入}}$	1.0%	2.8%	1.9%	1.6%	1.2%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	40.3%	40.8%	38.9%	38.9%	41.2%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△1.5%	1.1%	△0.8%	△1.1%	△1.2%

※「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

※「事業活動収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計＋特別収入計

③資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収 入 の 部	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学生生徒等納付金収入	1,128,647	1,211,571	1,293,339	1,307,044	1,252,951
手数料収入	82,424	77,721	66,578	61,335	74,320
寄付金収入	23,373	69,188	48,686	42,347	28,484
補助金収入	951,921	1,020,943	1,001,500	995,095	1,003,892
資産売却収入	0	0	11,900	85	0
付随事業・収益事業収入	32,161	30,336	41,613	44,619	43,286
受取利息・配当金収入	1	1	1	22	83
雑収入	127,605	62,045	122,240	131,447	46,889
借入金等収入	30,000	48,000	200,000	5,000	0
前受金収入	290,647	263,147	220,551	228,657	260,880
その他の収入	885,774	913,133	1,024,339	1,054,861	1,266,595
資金収入調整勘定	△ 365,437	△ 373,726	△ 382,076	△ 337,732	△ 263,824
前年度繰越支払資金	744,827	734,126	723,254	668,141	707,806
収入の部合計	3,931,943	4,056,484	4,371,925	4,200,921	4,421,363

(単位：千円)

支 出 の 部	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費支出	1,578,532	1,501,399	1,635,362	1,689,953	1,607,158
教育研究経費支出	390,809	448,239	483,757	412,774	401,590
管理経費支出	138,864	177,146	189,007	218,095	221,942
借入金等利息支出	6,386	5,940	5,600	6,078	5,179
借入金等返済支出	116,348	124,148	134,452	127,771	98,384
施設関係支出	62,656	62,894	383,484	65,867	2,397
設備関係支出	24,440	89,326	26,274	36,034	23,372
資産運用支出	135,000	65,000	55,000	70,000	115,000
その他の支出	883,468	913,609	917,491	998,347	1,244,041
資金支出調整勘定	△ 138,686	△ 54,472	△ 126,645	△ 131,804	△ 59,905
翌年度繰越支払資金	734,126	723,254	668,141	707,806	762,205
支出の部合計	3,931,943	4,056,484	4,371,925	4,200,921	4,421,363

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動資金収支差額が令和6年度より前年度比2年連続増加となりました。

(単位：千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入 計		2,312,806	2,391,498	2,534,569	2,551,524	2,436,186
教育活動資金支出 計		2,108,200	2,126,352	2,307,790	2,320,819	2,230,582
差 引		204,606	265,147	226,779	230,705	205,604
調整勘定等		76,282	△ 39,789	△ 42,120	9,716	39,871
教育活動資金収支差額		280,888	225,357	184,660	240,421	245,475
施設整備等活動による資金収支						
施設整備等活動資金収入 計		33,326	80,305	101,287	50,444	13,636
施設整備等活動資金支出 計		192,096	187,220	434,759	141,901	110,769
差 引		△ 158,770	△ 106,915	△ 333,472	△ 91,458	△ 97,133
調整勘定等		11,565	△ 23,219	35,805	10,237	901
施設整備等活動資金収支差額		△ 147,205	△ 130,134	△ 297,666	△ 81,221	△ 96,232
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額）		133,683	95,224	△ 113,007	159,200	149,243
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入 計		824,323	829,628	1,091,261	920,957	1,149,498
その他の活動資金支出 計		968,707	935,724	1,033,367	1,040,493	1,244,342
差 引		△ 144,384	△ 106,096	57,894	△ 119,536	△ 94,844
調整勘定等		0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額		△ 144,384	△ 106,096	57,894	△ 119,536	△ 94,844
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)		△ 10,701	△ 10,872	△ 55,113	39,665	54,399
前年度繰越支払資金		744,827	734,126	723,254	668,141	707,806
翌年度繰越支払資金		734,126	723,254	668,141	707,806	762,205

ウ) 財務比率の経年比較

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額 比率	教育活動資金収支差額 教育活動収入計	12.1%	9.4%	7.3%	9.4%	10.1%

(2) その他

①資産運用の状況

預金は全て、普通預金又は決済用預金で運用している。

②学校債の状況

なし

③寄附金の状況

特別寄付金収入 2,848 万円を受けている。

④補助金の状況

主な補助金は、国から経常費補助金 2,758 万円、県から運営費補助金は 7 億 8,822 万円を受けている。

⑤収益事業の状況

なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

教育活動資金収支差額は 2 年連続で増加しているものの、経常収支差額が令和 5 年度より 3 年連続支出超過となっており、財務状況は厳しい状況にある。一方で、高等学校 2 校については募集状況が堅調に推移しており、安定した生徒確保が図られている。

山村学園短期大学は令和 9 年度より学生募集停止することを決定し、高等学校 2 校においては少子化や物価高騰、人件費の上昇に加え、埼玉県内私立高等学校の中で学納金水準が低位にあること等を踏まえ、令和 9 年度入学生から学納金の値上げ予定である。これにより、課題となっている引当金の積立不足や、人件費・物価上昇への対応を図り、財務改善を見込む。

また、中長期計画の下、経常収支が常にプラスとなるよう、「安定的な収入の確保」と「支出の抑制」に取り組み、学生・生徒および職員が安心できる教育環境の実現を図る。

3. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

本法人は、令和6年12月6日、理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、本法人の基本方針を以下のとおり決定しております。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

1. 経営に関する管理体制

- ① 理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令・寄附行為に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴いたうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督する。
- ② 寄附行為並びに「寄附行為施行細則」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行う。
- ③ 「理事の職務及び決裁権限規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図る。
- ④ 理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「文書管理規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。

2. リスク管理に関する体制

- ① 「リスク管理規程」を整備し、リスク対応方法等を明確にしたうえで、理事長を最高責任者とするリスク管理体制を構築するものとする。
- ② 本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等の必要な事項を決定する。

3. コンプライアンスに関する管理体制

- ① 理事及び職員の職務執行が法令並びに寄附行為に適合することを確保するための体制を整備するため、「コンプライアンス推進規程」を定める。
- ② 本法人のすべての役職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、不正防止等に関わる役職員への教育及び啓発活動を継続して実施、周知徹底を図る。
- ③ 本法人の内外から匿名相談できる通報窓口を常設して、不正の未然防止を図るとともに、速やかな調査と是正を行う体制を推進する。通報窓口又は監事に対しコンプライアンスに関する相談又は違反に係る通報をしたことを理由に、不利益な取扱いを行わない。

4. 監査環境の整備(監事の監査業務の適正性を確保するための体制)

- ① 監事が職務を補助する職員(以下「補助職員」という。)を置くことを求めた場合、法人は、監事の求めを尊重し、補助職員を配置することを検討するものとする。

- ② 補助職員は、監事の指揮命令下で監事の職務を補助する職務を行い、監事以外からの指揮命令を受けないものとする。
- ③ 理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事又は監事の指示を受けた補助職員が報告を求めた場合、速やかにこれに応じるものとする。
- ④ 理事又は職員等は、本法人に著しい損害を与えるおそれのある事実又は法令、寄附行為に著しく違反する行為等を発見したときは、直ちに理事長及び監事に報告する。
- ⑤ 理事又は職員等は、前号の報告を行ったことを理由として不利益な取り扱いを受けないものとする。
- ⑥ 監事が職務の執行について本法人に対して費用の前払又は償還、債務の債権者に対する弁済の請求をしたときは、本法人は、当該請求に係る費用又は債務が当該監事の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかにこれに応じるものとする。
- ⑦ 本法人は以上の監査環境の整備について、「監事監査規程」に定めるものとし、同規程の改廃については監事と協議を行うものとする。

5. 本方針の改廃

本方針に見直しの必要性が生じた場合は、理事会の決議により改正するものとする。

5. 山村学園短期大学

1. 概要
2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
3. 18歳人口
4. 学生募集
5. 退学者数
6. 求人・就職
7. 本学への評価
8. 財務
9. 入学定員変更
10. 教育内容の改善
11. 入学者数の確保・広報
12. 入試方法の改善
13. 私立大学等改革総合支援事業補助金への対応及び東上地域大学教育プラットフォームへの参画
14. 魅力ある教育の実践

1. 概要

令和8年度入試において入学予定者が46名(うち、職業訓練生13名)前年度比-1名となった。目標としていた60名に届かず、令和7年度の教育活動資金収支差額が-3千万円を下回り、月ごとの収支においても資金ショートしかねない状況にあることから、令和6年度に作成したリスクシナリオに則り、令和8年3月6日の役員会において、令和9年度の学生募集の停止が決定された。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られているが、卒業時に実施する満足度調査においては、冷暖房設備に関する指摘が多く見られた。

令和7年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組んだ。私立大学等改革総合支援事業補助金では、タイプ1、タイプ3の補助金(1000万円~1200万円)を獲得することができた。

学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を行った。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は、今後も続くと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

(1) 建学の精神、教育目標

山村学園短期大学 教育方針
○校訓(建学の精神の流れをくむシンボリックなもの) 「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。 「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
○寄附行為 「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」
○短大学則第1条第2項 「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」
○短大学則第1条第3項 「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積 GPA 一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ・保育者としての専門的知識・技能
- ・社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

- ・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について

考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・社会人として必要なマナー・常識・態度

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

（教育内容）

- ・保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系性、系統性をふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。

- ・保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。

- ・1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「子ども学演習Ⅰ・Ⅱ」「キャリアアップ・セミナーⅠ・Ⅱ」を、2年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ」「キャリアアップ・セミナーⅢ・Ⅳ」をそれぞれ配置します。

・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

（教育方法）

・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

（評価）

・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況の評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

（知識・技能）

・幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。

・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。

・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

（思考力・判断力・表現力）

・学びの基礎となる「読む、書く、聞く、話す」能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。

・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

3. 18 歳人口



表は、川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、富士見市、ふじみ野市、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町の令和 6 年 1 月 1 日付けの 18 歳人口とその後の予想値である。令和 7 年と令和 8 年を比較すると 0.27%の微増であるが、令和 7 年度と令和 17 年度では、11.6%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。令和 6 年度から令和 13 年度までは、比較的緩やかな減少であるが、それ以降は減少率が高くなっている。

4. 学生募集

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学者数	74	65	70	53	58	48	46

表は、令和2年度からの子ども学科合格者数を示したものである。令和8年度の入学者数は46名と令和4年度から減少傾向が続いている。

高校名	令元	令2	令3	令4	令5	令6	令7	令8	目標値 過去9年平均
山村国際高校	6	10	8	7	3	2	10	2	6.8
川越西高校	6	5	6	5	4	1	3	3	4.3
小川高校	5	5	5	1	3	3	2	2	3.9
県立越生	5	1	2	1	1	1	2	0	1.3
松山女子高校	3	3	1	2	1	2	0	0	1.8
武蔵越生	3	1	0	6	1	1	0	0	1.8
寄居城北	3	4	2	1	0	2	0	0	2.0
新座柳瀬	3	0	0	0	0	0	0	0	0.7
鴻巣女子高校	3	2	0	3	1	1	0	2	1.8
筑波大学付属坂戸高校	2	1	1	0	0	0	0	0	0.6
埼玉平成高校	2	1	0	1	2	0	1	0	0.9
川越初雁高校	2	1	0	0	0	0	0	0	0.4
狭山清陵高校	2	1	2	0	0	0	0	0	0.5
滑川総合高校	1	3	6	8	6	6	4	9	5.4
秋草学園高校	1	0	1	0	1	0	0	1	1.0
鳩山高校	1	2	1	2	0	0	0	0	1.3
富士見高校	1	1	0	2	0	0	0	1	0.8
飯能南	1	1	1	0	0	0	0	0	0.3
飯能高校	1	1	1	0	0	0	0	0	0.6
朝霞西	1	0	0	1	0	0	0	1	0.3
東京成徳大学深谷高校	0	2	1	0	1	0	1	0	1.3
鶴ヶ島清風高校	0	1	5	6	1	2	4	0	2.5
川越総合高校	0	2	1	0	3	3	1	0	1.5
山村学園高校	0	3	0	3	1	3	1	1	1.8
坂戸西高校	0	2	0	5	1	1	0	0	2.2
志木高校	0	1	0	1	0	1	0	0	0.9
豊岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
ふじみ野	0	0	0	1	1	1	1	0	0.5
市立川越	0	0	0	0	0	2	0	0	0.3
伊奈総合学園高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
誠和福祉高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
日高高校	0	0	0	1	0	3	0	1	0.7
本庄第一	0	0	1	0	0	0	0	0	0.4
正智深谷高校	0	0	1	0	0	0	0	0	0.2
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
朝霞高校	0	1	0	1	0	0	0	0	0.2
西武台	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
狭山経済	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
秩父農工科学	0	0	1	1	0	2	0	1	0.7
川越南	0	0	1	0	0	1	0	0	0.3
合計	52	55	48	59	31	38	30	24	50

左の表は、主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向があるが、令和8年度入試では、9名の滑川総合高校が突出しているが、その他は減少傾向にある。

左記以外にも入学者はあるものの、本学に入学する主要な高校の中の合計数は減少してきている。

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	R1	R1 割合	R2	R2 割合	R3	R3 割合	R4	R4 割合	R5	R5 割合	R6	R6 割合	R7	R7 割合
資料請求数	968	100%	918	100%	714	100%	681	100%	610	100%	610	100%	510	100%
参加者人数（延べ数）	278	29%	237	26%	307	43%	189	28%	186	30%	138	23%	157	31%
参加者人数（1、2、3年生以上の実質数）	182	19%	144	16%	169	24%	127	19%	118	19%	91	15%	108	21%
参加者人数（3年生以上のみの実質数）	98	10%	105	11%	103	14%	83	12%	74	12%	54	9%	68	13%
次年度志願者数	57	6%	57	6%	70	10%	53	8%	59	10%	48	8%	37	7%
次年度志願者数/参加者人数（3年生以上のみの実質数）	58%		54%		68%		64%		80%		89%		54%	

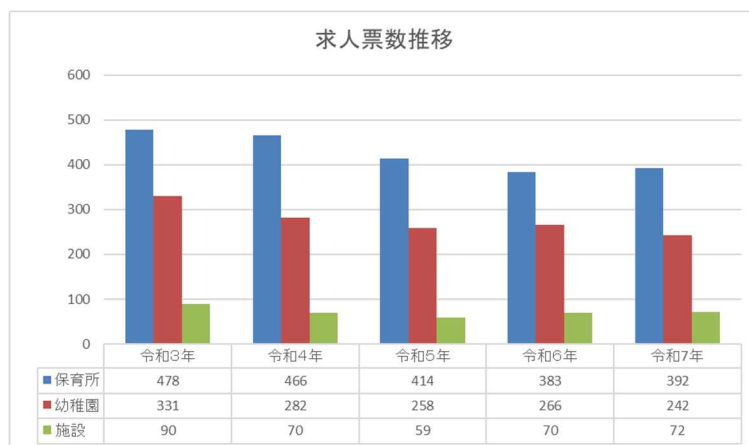
上の表は、オープンキャンパス（年に 20 回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。昨年度は、オープンキャンパスに参加した 3 年生以上の受験生のうち 89%が実際に志願していたが、令和 7 年度については 54%（昨年度比-35%）と激減した数字となった。職業訓練生は、昨年の 7 名から 13 名と増え、本学の魅力が伝わったと考えるが、参加者数自体は減少傾向にあり、入学者数全体の伸びにはつながらなかった。

5. 退学者数

	令和 2 年度生 73 名入 学 →68 名	令和 3 年度生 65 名入 学 →61 名	令和 4 年度生 70 名入 学 →66 名	令和 5 年度生 52 名入 学 →49 名	令和 6 年度生 58 名入 学 →56 名	令和 7 年度生 47 名入 学 →46 名
1 年時 退学者	1	3	4	3	1	1
2 年時 退学者	4	1	0	1	1	-
退学者 数合計	5	4	4	4	2	1

左の表は、退学者数を表したものである。令和 7 年度は、入学者 47 名のうち、1 名が退学した。

6. 求人・就職



左の表は、求人票数の推移をまとめたものである。令和 7 年度の求人票数（R8 年 2 月現在）を見ると、依然として現場からのニーズは高いが、徐々に減少していることがわかる。一般企業は、左記以外に 103 来ている。求人票を送る前に電話で打診してくる園も多いため、求人票数は減っ

ているが、実質的には人手不足が続いていると見られる。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

また、キャリアス UC キャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和 8 年 3 月卒業生向けが、

9454(前年は 8980)届いている。内容は企業からの求人が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等も年々増え、内容も多岐に亘っている。

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現役合格	2	4	4	1	2	0	6	5	5	16
過年度卒	0	1	3	1	0	2	0	2	0	2
合計	2	5	7	2	2	2	6	7	5	18

上の表は、公務員試験の合格者数(延べ数)である。令和 7 年度は 13 名の合格者があり、前年度を大きく上回った。(前年度比+8 名。現役合格者の中には小学校教員合格者 1 名を含む。)

7. 本学への評価

(1) 就職先からの評価 令和7年3月卒業者に対する評価

令和6年度卒業生の勤務状況調査(所属長回答)

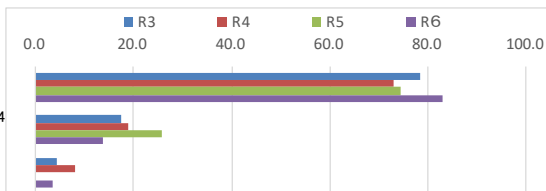
回答率**92.6%**(前年93.5%) 依頼:27箇所33名分 回答:25箇所30名分(保12幼3認4施設9学童1産後771)

※「令和6年度卒業生」は令和7年3月に卒業した学生(23番台)。1名は休んでいるという回答のため下記には算入せず。

1 出勤状況 (%)

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	78.3	73.0	74.4	82.8
(2)ふつう	17.4	18.9	25.6	13.8
(3)努力が必要	4.3	8.1	0.0	3.4

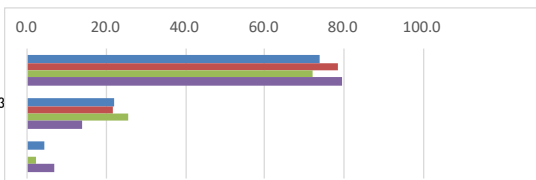
・休みが多く体調管理が必要(保)



2 勤務態度 (%)

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	73.9	78.4	72.1	79.3
(2)ふつう	21.8	21.6	25.6	13.8
(3)努力が必要	4.3	0.0	2.3	6.9

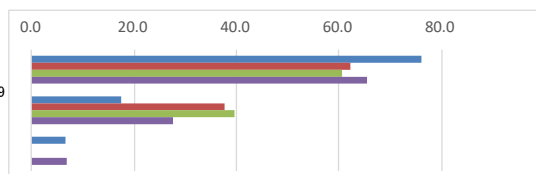
・「わからない」「コール「教えてもらっていない」「知らない」になってしまう(保) ・保育士としての知識に少し欠ける(保)



3 幼児(施設:利用者)への関わり方

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	76.1	62.2	60.5	65.5
(2)ふつう	17.4	37.8	39.5	27.6
(3)努力が必要	6.5	0.0	0.0	6.9

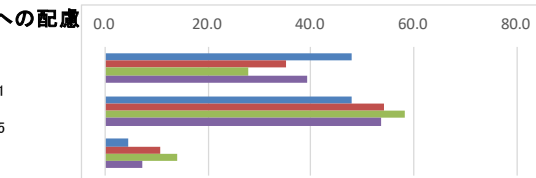
・本人に対して子どもが逃げ回ったり話を聞かないと「この子は自分のことが嫌いなんだ」と関わりから逃げてしまう。(保) ・1対1ならどうにか出来るがクラス運営となるとクラスがまとまらなくなる(保)



4 環境構成員(施設等では環境整備、安全・安心への配慮

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	47.8	35.1	27.9	39.3
(2)ふつう	47.8	54.1	58.1	53.6
(3)努力が必要	4.4	10.8	14.0	7.1

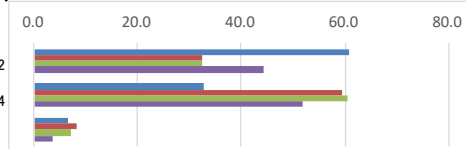
※2名記入無し:現在フリーとして勤務中なので該当無し等(保)



5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	60.9	32.4	32.5	44.4
(2)ふつう	32.6	59.5	60.5	51.9
(3)努力が必要	6.5	8.1	7.0	3.7

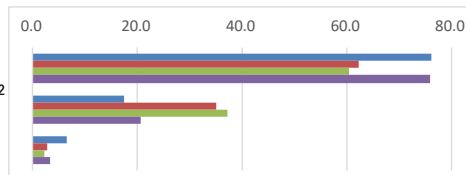
※2名記入無し:現在未対応(保) ・本人が町内在住のため近所の方が当園に在籍となると敬語を使わず友達のように話してしまう。(保)



6 他の職員との協調性

年度	R3	R4	R5	R6
(1)たいへんよい	76.1	62.2	60.5	75.9
(2)ふつう	17.4	35.1	37.2	20.7
(3)努力が必要	6.5	2.7	2.3	3.4

・明るくどの職員とも接することが出来ている。(保) ・否定から入るので少し困っている。(保)



7 その他(本学への要望等)

- ① 入職してまだ4ヶ月ですが、とても頑張っている。先輩の意見を聞くだけで無く自分の意見(思い)も相手に伝えられる等も出来ている。保育の学びを柔軟に出せる環境を作っていきたいと思っています。(保)
- ② 笑顔を絶やさず何事にも積極的に臨み、子ども達にも園にも貢献してくれている。良い先生に巡り会えたこと、御校の教育に感謝します。(幼)
- ③ とても素晴らしい先生(学生)をこらせていただきありがとうございます。(幼)
- ④ 「子ども達の良さや可能性を引き出し伸ばせる保育・教育者」を今後も育成してください。(幼)
- ⑤ 実習の時と同様、真面目に頑張っている。障害福祉の応募が減っているので興味を持って頂けるようお願いします。(施)

【考察と課題】

【考察】

- ① この卒業生の勤務状況調査(所属長回答)は、毎年卒業生の卒業先が異なるため、同一の園や施設からの回答ではないことに注意することが必要である。したがって、調査結果を過度に一般化することは控えたいが、いくつかの指摘をすることはできると考える。
- ② まず、問1「出勤状況」及び問2「勤務態度」はそれぞれ「たいへんよい」が80%前後と、ここ数年では最も高くなっていて、この学年の学生の真面目さは就職先でも評価されていると思われる。
- ③ しかし、問3「幼児・利用者(施設)への関わり方」では「たいへんよい」は65%程度で例年並み、問4「環境構成員」及び問5「保護者・利用者家族へのかかわり方」では「たいへんよい」は40%程度、問6「他の職員との協調性」でも「たいへんよい」は75%程度で、昨年、一昨年よりはよいものの、問3～6の保育の実践力については大いによくなったとまでは言えない結果といえる。子どもや利用者、保護者や家族、あるいは同僚の職員とのコミュニケーション力、保育の応用力である環境構成員などは、まだ向上の余地があるという評価であるとも考えられる。

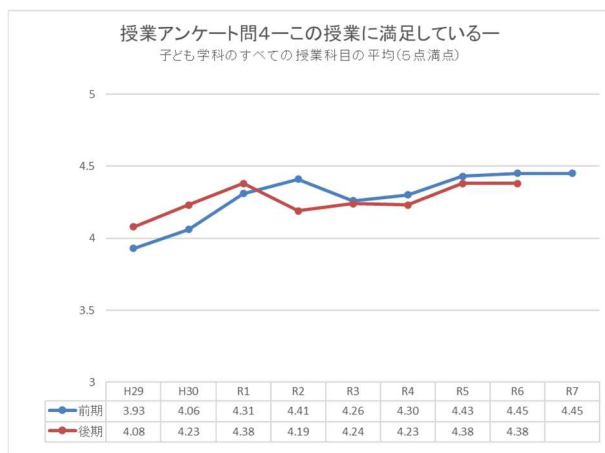
【課題】

- ① 出勤状況や勤務態度の評価から本学卒業生の真面目さやひたむきさは本学卒業生の強みであり、大いに評価できるものである。しかし、施設長からのコメント中には、「休みが多く体調管理が必要」、「わからない」イコール「教えてもらっていない」「知らない」になってしまう、「子どもが逃げ回ったり話を聞かない」「この子は自分のことが嫌いなんだ」と関わりから逃げてしまうなど、社会人として「未熟さ」が窺われ、大学におけるある種の厳しさをもって指導していくことの必要性が感じられる。
- ② また、まだ向上の余地があるとされるどもや利用者、保護者や家族、あるいは同僚の職員とのコミュニケーション力、保育の応用力である環境構成員など、入職数カ月で身につくようなものではないことは自明であるが、本学の教育の中でも、実習指導や保育内容等の授業において事例を通して具体的に、実践的な指導を考えたり、他の演習科目でもグループワークなど協働性を理解できる学習内容を工夫することを考える必要があると思われる。
- ③ 最後に、施設長の所感にあるような「子ども達の良さや可能性を引き出し伸ばせる保育・教育者」、「先輩の意見を聞くだけで無く自分の意見(思い)も相手に伝えられる」卒業生をより多く輩出するためには、学生の自主性を重んじた、学生自らが育つ教育のあり方、効果的な授業目標・課題の達成の仕方を教員間で研究・共有することも大切かと思われる。

上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。おおむね前年より評価が上がっている。環境構成員については、評価が低くなる傾向があったが、今回は評価が上がっている。

現場からは、子どもたちの良さを引き出し、伸ばせる保育者、教育者としての能力やコミュニケーションスキルについて向上させてほしいとの声がある。引き続き本学教育に活かしていきたい。

(2) 授業への評価



左のグラフは、子ども学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。

令和7年度は、これまでで最もよい数値となった。

(3) 学生満足度調査

令和7年度卒業時本学に関する満足度アンケート					
	令和7年度 回答者数54名 回答率96.4%	令和6年度 回答者数46名 回答率97.9%	令和5年度 回答者数62名 回答率96.8%	令和4年度 回答者数57名 回答率100.0%	令和3年度 回答者数62名 回答率94.0%
問1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。	86.1%	88.7%	81.5%	78.6%	78.1%
問2 いろいろな面での満足度を具体的に聞きます。					
(1)授業についてどの程度満足していますか。	83.7%	79.6%	76.0%	73.8%	74.0%
(2)実習とその指導についてどの程度満足していますか。	85.4%	80.2%	80.5%	73.6%	75.8%
(3)体験活動・学習や行事についてどの程度満足していますか。	83.5%	82.0%	79.2%	71.4%	66.6%
(4)この2年間の自分の成長にどの程度満足していますか。	84.8%	83.6%	78.2%	81.2%	76.9%
(5)就職できたことをどの程度満足していますか。	85.8%	92.6%	88.6%	85.4%	85.8%
(6)本学の施設・設備についてどの程度満足していますか。	77.4%	72.0%	71.9%	69.3%	65.6%
(7)友人との出会いをどの程度満足していますか。	88.7%	88.3%	84.0%	84.7%	82.4%
(8)先生との出会いをどの程度満足していますか。	88.9%	92.0%	85.6%	79.5%	79.8%
(9)事務局についてどの程度満足していますか。	87.9%	88.7%	77.1%	—	—

上の表は、短大全体について令和8年3月に卒業する卒業生に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「先生との出会い」「就職できたこと」「友人との出会い」に関して高い値となっている。

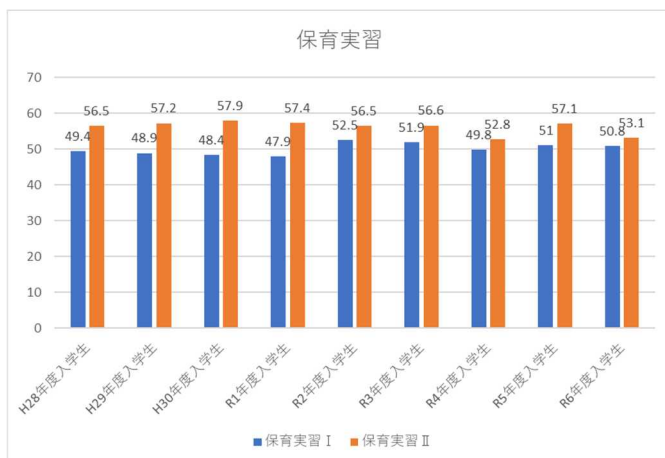
問3	本学に入學してよかったと思うことを記述してください。
1	人間関係、バックアップetc.
2	遊びが多くて楽しかった。友達いっぱいできた。実習ががんばれた。
3	先生がやさしい。
4	家から近い。
5	自然豊かな環境の中で、様々な体験ができた。
6	他の大学と違う和やかな雰囲気。先生たちが気軽に相談しやすい。
7	自分が何が好きで、何が嫌いかわかる確認できた。
8	楽しかった。先生と話しやすい。進路手厚い。
9	先生達などが親切丁寧に指導してくれたり、奨学金などの書類を細かくチェックしてサポートしてくれた。自然豊かで良かった。
10	行事と自然が落ち着いていて良かった。
11	行事楽しかった。
12	2年間を通して、学んだこと、身につけたことがあって、先生が無理なく2年間で身につけてくれたんだなぁ…感謝！と就活中に思った。あと景色が良い！鳥の鳴き声を聞きながら、前向きになれる環境が私にあって良かったと思った。
13	先生方がとても優しく、悩みが相談できない、話せないということがなくて、なんでも話せることができてよかった。
14	学生の自主性を尊重し、指導していただけたところ。
15	自然が多いので、気分がとっても良かったです。先生が親身でよい。
16	いろいろなことをたくさん学べた。いろんな人と関わることができた。
17	豊かな自然の下でのびのび過ごす中で、たくさんの友人と絆を育むことができました。先生方とも気軽に関わることができました。実習に行くときも手厚くサポートしてくれました。たったの2年間でたくさんの成長を感じ、かけがえのない思い出ができました。やまたんに入学してよかったと心の底から思います。
18	先生方が相談にのってくれて一緒に考えてくれたのが助かりました。自然豊かな中で学ぶことができて良かったです。実習指導がしっかりしているので良かったです。
19	資格が取れる。実践的な活動が多い。相談にきちんと答えてくれる（私的なことでも）
20	友だちができたことや事務局の方や先生と仲良くなれた事。
21	先生も友達も距離が近くて毎日楽しかったです。実習も先生方が手厚くサポートしてくださって安心して取り組むことができました。とにかく楽しかったです。毎日ハッピー
22	のびのびと生活することができた。
23	オープンキャンパスの氣に言われた「アットホームな大学。学生と先生の距離が近い」という言葉は本当にあってるなと感じた。楽しいことには一緒にになって全力で楽しんでくれたり、相談ごとには親身になって寄り添ってくれたり、常に支えてくれる存在でした。
24	少人数だからこそ先生との距離が近くて相談しやすい。
25	資格がもらえる。
26	2年間という短い期間で資格取得することができ、幼い頃から夢であった母国へ就職することができました。自然に囲まれた環境で様々な経験をし、保育への学びを深めることができた。これからの人生で長く付き合える友だちとも出会い、自分にとって大きな2年だった。
27	自然豊か。
28	自然豊かで保育を学ぶのに最適。アットホーム。
29	先生との話しやすさ。
30	色々な友達と会えたこと。実習で色々なことを学べた。
31	最高の友達に出会えた。先生が優しい。
32	色々なことを体験できた。ピアノができるようになった。
33	資格とれた。
34	自然と沢山関わること。先生方がみんな優しいところ。少人数だから沢山の子と関わり授業も充実しているところ。
35	保育として働くという自分の夢に向かって努力できる環境が整っていたこと。
36	先生と仲良くなれたこと。友達ラブ。
37	自然が身近に感じられたこと。先生や友達に良い人たちが多かった。相談しやすい先生がたくさんいた。
38	自由。緩い。自然豊か。
39	みんなと出会えたこと。
40	保育士資格と幼稚園教諭免許を取得できること。
41	毎日楽しく過ごせました。
42	講義が少ない、実際に体験することが多くてうれしい。自然豊かでそれを授業でも取り入れてくれるからうれしい。先生と話しやすかった、みんな優しい。いい意味でこれだけ少人数なのにほっておいてくれるから伸び伸び好きなように過ごせて、成長できた。
43	楽しかった。先生と話しやすい。進路手厚い。
44	自然を身近に感じられる。自分の好きなことに向き合える。
45	自分のやりたいことに向き合えた。
46	就職、資格を得たこと。
47	楽しかった。
48	楽しかった。
49	沢山の友との出会い。自然の中での学び。
50	いつも先生も事務局の方も温かく、自分からでなく向こうから声をかけてくれることも多く、毎日楽しかったです。友だちにもめぐまれていつも相談にのってくれたり、お互い助け合ったり、笑い合ったり、本当に入学して良かったと思います。体験学習も多かったので自分も楽しみながら色々なことにチャレンジすることができて良かったです。
51	2年間、友達に会えたこと。

問4 改善すると思うことを記述してください。	
1	設備（カフェテリア、空調、トイレ）。
2	空調、バスの本数。
3	行事微妙！！
4	寒い。
5	インクルーシブ教育を更に深く学ぶ、子ども用トイレをつくる、204と1F今日お室の机と椅子が使いにくい。
6	体育館の設備。
7	設備。特にトイレ。自販機もう少し台数がほしい。
8	学年によって週4だったり週5だったりしたこと。
9	トイレが途中で使えなくなったり、エアコンがつかないなどのトラブルがきつかった。
10	特にない。
11	特になし。
12	カフェテリアのごはん…。 冬は寒い！早めに暖房を入れて欲しかった。
13	特になし。
14	階段が多くて大変。バスが上で停まってほしい。ちょうどいい時間のバスがほしい。
15	特になし。
16	楽しすぎて卒業したくないと思ってしまうほど楽しすぎるどころ。
17	特になし。
18	階段が多い…。バス。
19	もう少し行事が増えると良かった（後輩との関わりが少ない）。
20	エアコンをちゃんと直した方がいいと思います！！
21	プリントを少なくする。
22	テストを返してほしい。自分が何を間違えて、何を正解としているのかわからない。大学専用のバスがあったらいいと思う。
23	エアコン。
24	暖房をつけておいて欲しい。
25	休講、補講の連絡をもっと分かりやすくして欲しい。
26	ユニバーサルデザインにしてベビーカーの人が山緑祭の時に来やすくして欲しい。
27	時間割の組み方。
28	特になし。
29	男子に対する待遇。
30	お金が高い。
31	ロッカーの位置。やまたん指定バス。
32	階段が多くて大変。
33	暖房をつけたほうがいい。
34	設備を整える（エアコン、トイレ等）。
35	空調。カフェテリア。
36	特になし。
37	特になし。
38	とにかく寒い。
39	なし。
40	なし。
41	ピアノの調律。
42	授業の内容。設備。
43	男子トイレもキレイなやつが欲しい。
44	男子トイレを増やして（キレイなやつ）
45	特にありません。
46	特にありません。
47	授業が分かりにくい時がある。

自由記述においても、教員との関係、友人との関係、豊かな自然などでの満足度が高く、本学の大きな強みとなっている。

改善したほうが良い点では、冷房暖房のききが悪く、冷暖房設備について改善を求める声が多い。また、男子トイレの改修を求める声も複数見られた。

(4) 実習での評価



左の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。2回目の実習のほうが確実に点数が上がっているが、全体の数値は例年並みである。



左の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。令和7年度は前年に比べ数値が下がった。

8. 財務

山村学園短期大学 概算 経常収支

(単位:円)

経常収支		R 5 年度決算	R 6 年度決算	R 7 年度②補正
経常収入	学納金	118,820,000	105,775,000	104,290,000
	国庫補助金(減免費・施設整備なし)経常費補助金のみ	17,007,000	13,710,000	24,390,000
	付随事業・収益事業収入	27,269,640	30,050,760	25,630,000
	前受金収入	58,116,090	58,712,020	41,900,000
	前受金収入(調整=前年度前受金)	▲ 68,951,940	▲ 58,116,090	▲ 58,712,020
	計①	152,260,790	150,131,690	137,497,980
経常支出	人件費支出(退職金除く)	142,737,715	140,097,703	126,800,000
	教育研究経費支出(減免費・減価償却費なし)	21,943,095	23,116,678	27,369,700
	管理経費支出(減価償却費なし)	34,851,898	24,495,615	30,070,000
	計②	199,532,708	187,709,996	184,239,700
経常収支 差額 (①-②)		▲ 47,271,918	▲ 37,578,306	▲ 46,741,720
運営補助額		30,000,000	30,000,000	40,000,000

※あくまで概算である。

※短大は前受金収入に手を付けていることから経常収入のなかで調整した積算である。

※固定資産の取得は見込まない。

※退職金財団の精算は含まない。

(1) 概況

令和7年度は、人件費の1,300万円の削減し、私立大学等改革総合支援事業補助金制度タイプⅠ及びタイプ3で補助金を獲得することができた(1,000万円から1,200万円の予定)が、入学者の数は伸びず、財務の状況は極めて厳しい。リスクシナリオに基づき、令和8年3月6日の役員会において、募集停止が決定された。

(2) 人件費

人件費については、前年度比1300万円～1400万円の削減を行なった。しかし、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加したこともあり支出超過となった。

(3) 施設・設備

令和7年度は、突発的に生じた揚水管の破損に対応し、揚水管の仮修繕を行った。断水により冷房に大きな影響が出て、2週間ほど事務局及び学長室では冷房が効かない状況が続いた。施設設備の老朽化は進んでおり、今後も突発的な修繕が必要になる可能性が高い。

9. 入学定員変更

高等教育無償化の対象機関となるための要件である、収容率50%を確保し、よりコンパクトな財政で運営できるよう、入学定員を令和8年度から100名から50名に変更する手続きを予定通り行った。

10. 教育内容の改善

(1) 週4日授業

授業を週4日とし、授業日をコンパクトにすることにより、学生一人ひとりの幅広いニーズに

応えとともに、新たな体験学習を導入し、より体験的に学習できる仕組みを整備した。

(2) 小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許取得

星槎大学との連携により、小学校教諭 2 種免許状について 2 名が取得。埼玉県教員採用試験(小学校教諭)に 3 名合格。(現役学生 2 名、卒業生 1 名)

(3) その他資格

あいサポーター、視覚障害スマートフォンサポーター、地域子育て支援士、保育 ICT 検定などについて、予定通り講座を開設し、希望者が資格を取得することができた。

(4) 学園内2校との緊密な教育的連携

山村国際高校とは保育専攻コースで単位の互換を実施し、山村学園高校では、保育系大学希望者に保育園での体験学習を実施した。

11. 入学者数の確保・広報

(1) 入学者数 60 名の確保

高校新卒者 50 名、職業訓練生 10 名程度を目標としたが、高校新卒者 33 名、職業訓練生 13 名、計 46 名にとどまった。

(2) オープンキャンパスの実施日数について昨年同様の回数を確保する。

前年度同様、令和7年度は 17 回+αとした。特に5月、6月、7月について集中的に開催した。また、部活で土日の参加ができない高校生向けに平日の放課後オーキャンを新設した。

(3) コンサルティング会社(エデュース)の活用

リスティング広告(検索時広告)、インスタグラム広告配信、プロモーション動画作成など積極的に取り組んだ。

(4) SNS の活用

インスタグラム、LINE、ツイッター、YOUTUBE、TikTok、フェイスブックによる週1回から2回を配信する。併せて、学生によるインスタグラムを配信した。

(5) 在学生との協働

オープンキャンパスの学生クルーによるインスタグラム、TikTok の運営、配信を行い、紹介カードを用いて、在学生に高校生を紹介してもらった。

(6) 高校の家庭科へのアプローチ

個別に資料を届けて、情報提供につとめた。

(7) ホームページのコンテンツの充実

- ① 新たなランディングページを作成した。
- ② 効果的なコンテンツを選択し、より見やすく改装した。
- ③ 動画を充実させる。TOP ページに学内の学生、授業の様子がわかる動画を配信した。

(8) 中学校、幼稚園、保育園へのアプローチ

- ① 学園祭、公開講座、職業訓練生などの広報ちらしをPTA（中学校約40校、高校約20校）、幼稚園、保育園、公民館等に送付した。
- ② 学園内2校の中学生対象の学校説明会で短大のチラシを配付した。

(9) 学園内2校との連携

- ① 高校のコース、進路指導、家庭科と緊密な連携をはかった。
- ② あわせて、交流を通して、教職員の交流、相互理解の促進を行った。

(10) 高校訪問等

- ① 全教員による、年3回～4回の高校訪問を実施した。そのほか、間隔があく月にはプラスアルファで高校を訪問した。
- ② 通信制高校への指定校枠を増やした。

(11) マスコミへのアプローチ

- ① 映画、番組、CMなどの撮影にキャンパスを提供するよう試み、何件かの問い合わせ、見学があったが、最終的には撮影にいたらなかった。
- ② 行事などの機会を捉えて、マスコミに積極的に情報提供し、ニュースや記事にしてもらった。

12. 入試方法の改善

(1) 入試方法の見直し。

総合型選抜の第1期受験者のみに、学費優遇措置（入学金半額）を適用した。

また、オープンキャンパス参加者が面接指導等を受け、受験の準備が整った高校生には、「合格パスポート」カードを提供した。

(2) 遠隔地からの受験者への優遇措置

遠隔地からの受験者の検定料3万円を免除し、下宿をする学生へは月1万5千円の賃貸補助を行った。

13. 私立大学等改革総合支援事業補助金への対応及び東上地域大学教育プラットフォームへの参画

「私立大学等改革総合支援事業」については、type1, type3の補助金、計約 1,120 万円を獲得することができた。

14. 魅力ある教育の実践

(1) 週 4 日授業実施

多様なニーズに応えられるよう、授業日を週 4 日とし、月曜日には授業を入れないようにした。月曜日の使い方は3つのコースを設け、まったく授業を受けないことも可能にし、しかも教育的な意味も添えながら新たな体制を作った。

(2) 個別学修支援計画

すべての学生について個別の学習支援計画を立て、学生の潜在能力を最大化するよう努めた。また、個別学修支援のための「学修支援委員会」を新設した。

(3) 新しい資格、免許の導入の検討

小学校教諭免許、特別支援学校教諭の免許を取得できるコースを設定した。授業料についても2年分の授業料で3年から4年在学できる長期履修生制度を作った。2 名が長期履修を希望し、2 名とも小学校 2 種免許状を取得した。

(4) 合理的配慮の具現化

合理的配慮について、個別学修計画の立案、長期履修制度の活用などを行い、具体的な対応策を検討し、実践した。

(5) 応答的教育と授業の充実

本学の強みである、教員と学生との距離の近さを明確なコンセプトとして掲げ、学習指導、生活指導の中心に位置づけた。応答的教育とは、学生のニーズに対して、受容的かつタイミングよく応える教育を表す。

(6) SDGs(自然、環境)への取り組み

- ① 「SDGs と教育・保育」「ダイバーシティと教育・保育」を中心に、SDGs について体験的に学ぶ。学校全体としても、ファイヤーサークルの活用、腐葉土作り、日本ミツバチの養蜂など、SDGs に関わる内容を体験的に学習できるようにした。
- ② SDGs の学習に関しては、JAXA に講師派遣を依頼し、地球温暖化、エネルギー問題等について専門的な立場から最新の情報を講義していただいた。

附属明細書

該当事項なし